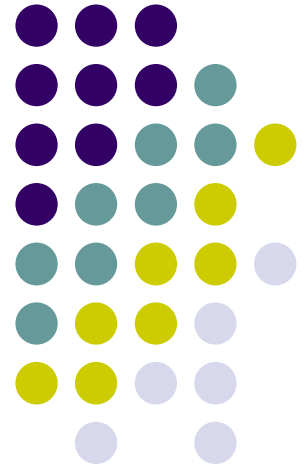


# 新専門医制度に対する 昭和大学の取り組み



昭和大学臨床研修センター  
高木 康

# 新専門医(専攻医)制度への対応(1)



平成26年12月：

- 新専門医制度に対する体制整備のため、「新専門医制度ワーキンググループ分科会」を設置
- 専門医に関する業務を大学病院管理課から「医学部卒後臨床研修センター」に変更（専従職員の配置）
- 医学部卒後臨床研修センターの役割
  - ・ 新専門医制度WG分科会の取り纏め
  - ・ 全19領域におけるプログラムの管理（定員数・連携施設・症例数等）
  - ・ 広報活動（全体説明会の実施・企業主催の合同説明会の参加・パンフレット作成・ポスター作製等）
  - ・ 採用試験の実施
  - ・ 採用者の研修施設ローテ作成

平成27年4月：

- 各学会の動向とプログラム作成の進捗状況を報告するため、毎月第2木曜医学部教授会後に新専門医制度WG分科会を開催する
- 構成メンバーは全19診療科の主任教授（内科・外科は複数診療科のため内科・外科の講座責任者）
- 附属病院も含めた取り纏めを行い、本委員会で本学の全体管理を行う。その際、診療科単独で病院群を形成せずにWGに適宜報告する

# 新専門医(専攻医)制度への対応(2)



平成27年7月：

- 各領域ごとに基幹型施設の数が報告。本院（昭和大学病院）を基幹型病院として附属3病院を加えた病院群を形成して専門医研修を行うこととした。

平成27年11月：

- 各診療科（領域）での募集定員数の確認（指導医数が基準）
- 総定員数の確定とそれに伴う給与体系の確立
- プログラムの申請締切は平成28年1月末

平成28年5月：

- 平成29年4月からの専攻医の職位は助教（医科）とする
- 給与も大幅に増額（約34万）する（理事会報告）

平成28年6月：

- 全診療科の総定員数は244名（最終217）とする（各診療科での希望定員数）

平成28年9月：

- 新専門医制度は平成29年4月からは一斉には実施しないことが専門医機構から発表（各診療科で旧制度と新制度を混在）
- 独自に採用試験を実施する

# 新専門医(専攻医)制度への対応(3)



平成29年1月：

- 後期臨床研修医（専攻医）に関する臨床研修規定（案）、専攻医委員会規程（案）が提出された

平成29年2月：

- 連携病院委員会 で学外臨床研修施設として登録されていない専攻医研修に必要な施設登録を申請理由を添付して提出：78施設が承認（連携病院委員会で学外臨床研修施設と専門医研修に必要な施設を承認する）

平成29年4月：

- 平成29年度に4回行われた採用試験の結果報告
- 後期臨床研修医（専攻医）に関する臨床研修規定と専攻医委員会規定が制定

平成29年5月：

- 新専門医制度WG分科会から「専攻医委員会」として正式設置

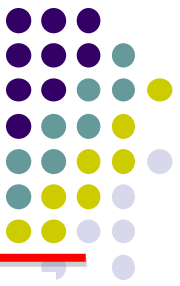
平成29年7月：

- 専攻医募集が10月から実施されることが確認

平成29年12月：

- 平成29年12月15日に専攻医の一次募集の結果が報告

# 昭和大学の専攻医関連事項



- 卒後臨床研修センターによる一元管理
  - ✓ 研修医：（初期）臨床研修医ばかりでなく専攻医、サブスペシャルティ領域専門研修医
  - ✓ 研修医の募集・採用などの管理
  - ✓ 研修施設〔学外臨床研修施設（90）、専攻医研修施設（74）〕
  - ✓ 研修内容：研修医のローテーション研修診療科・施設の把握
  - ✓ 研修評価：各種報告書、各種評価（表）などの管理
- 広報・募集活動の徹底
  - ✓ 専攻医募集の全体説明会・合同説明会への参加（学内研修医ばかりでなく学外研修医に対して）
  - ✓ HPの一新（分かりやすいHPへ）
  - ✓ 他施設研修医への専攻医募集の案内（本学卒業生、臨床研修マッチング参加者、説明会参加者、その他）

# 昭和大学の専攻医関連事項



## ➤ 専攻医プログラム

- ✓ 4つの大きな附属病院が基幹型と連携病院の病院群を形成したプログラム
- ✓ 内科は昭和大学病院、藤が丘病院、横浜市北部病院、江東豊洲病院が基幹型病院の4つのプログラム
- ✓ 外科は昭和大学病院（+江東豊洲病院）、横浜市北部病院（+藤が丘病院）が基幹型病院の2つのプログラム
- ✓ 産婦人科が昭和大学病院と横浜市北部病院が基幹型の2つのプログラム
- ✓ 他の診療科は主に昭和大学病院が基幹型のプログラム
- ✓ 基本診療科19領域、24プログラム（審査認定料は大学負担）

## ➤ 処遇（職位、給与）

- ✓ 助教（医科）
- ✓ 月約34万円/賞与2回/年収約430万円